



第8回年会「**ポストエピジェネティクス時代のエピジェネティクス**」開催

第8回日本エピジェネティクス研究会年会在、5月25日～27日の3日間、東大の伊藤国際学術センターで開かれました。参加者は総勢390名を越え、30社の企業に協賛・展示をして頂きました。ポスター128題、特別講演7題、一般講演9題、さらに、次回年会長講演の発表が行われました。本年会では、海外からお招きした4人の海外演者に講演をしていただきました。また、大会第1日目の夜に同じ会場で行われた懇親会には、多数の参加者に出席していただき、とても盛況な年会となりました。講演者の皆様、参加者の皆様、大変ありがとうございました。



口演会場の様子



R. H. Dashwood 博士
(TAMHSC-IBT, Texas)



W. L. Stanford 博士
(Ottawa Hospital
Research Institute)



A. Imhof 博士
(Ludwig Maximilians
University of Munich)



S. Khochbin 博士
(Institut Albert Bonniot,
Grenoble)

幹事会と総会が開かれました

- ▶ 5月25日に幹事会、26日に総会が行われました。
- ▶ 2015年の年会は、角谷幹事(国立遺伝学研究所)を年会長として、5月25、26日に一ツ橋学術総合センター(東京)で開催されます。この年会は「エピジェネティクスと遺伝学」をテーマとし、個体発生の研究から派生したエピジェネティクスという概念と、現在様々な研究分野で注目されるエピジェネティックな遺伝現象との関わりについて議論できるような研究会が開催される予定です。詳細が決まりましたら、またお知らせいたします。
- ▶ 2016年の年会長には、仲野徹幹事(大阪大学生命機能研究科)が選出されました。



ポスター会場の様子



第8回年会を開催して

第8回日本エピジェネティクス研究会年会長 塩田 邦郎（東京大学）

「ポストエピジェネティクス時代のエピジェネティクス」をテーマとした第8回年会が無事終了いたしました。今回は、初めての試みとして会期を3日間にしましたが、会期の延長にもかかわらず多数の皆さまに参加いただき、最終的に390名を超える盛会となりました。ご参加いただいた皆さま、大変ありがとうございました。また、共催・協賛として多大なご協力をいただいた、文部科学省新学術領域研究「動的クロマチン構造と機能」および公益社団法人・加藤記念バイオサイエンス振興財団、ならびに30社の企業の皆さまにも、この場をお借りして改めましてお礼申し上げます。今年も、本研究会の持つアットホームでありかつ熱い議論を交わすことのできる雰囲気を持続することができたのではないかと考えております。また来年、東京で皆さまにお会いできることを楽しみにしております。



年会会場の東京大学伊藤国際学術研究センター

情報を求めています！！

研究員・ポスドク募集および他の研究会のお知らせなど、ニュースレターを利用して公開してみませんか。年会に関するご意見・ご感想もよろしく願います。お近くの広報委員（中島欽一、梅澤明弘、角谷徹二、古関明彦、中山潤一各幹事）に気軽にe-mailください。

日本エピジェネティクス研究会事務局

山梨大学大学院医学工学総合研究部
環境遺伝医学講座内
庶務担当幹事：久保田健夫
担当：岡崎恵美
所在地：〒409-3898 山梨県中央市下河東 1110 番地
TEL：055-273-9557
E-mail：jse-jimukyoku@yamanashi.ac.jp



日本エピジェネティクス研究会
平成26年度第1回幹事会 議事要旨

場所：東京大学伊藤国際学術センター ギャラリー1

日時：平成26年5月25日（日）

出席者：牛島俊和、眞貝洋一、中島欽一、田嶋正二、佐々木裕之、湯浅保仁、石野史敏、伊藤隆司、梅澤明弘、角谷徹仁（代理：樽谷）、加藤忠史、金井弥栄、古関明彦、塩田邦郎、畑田出穂、広瀬進、副島英伸、木村宏、油谷浩幸、中山潤一、緒方勤、白鬚克彦、胡桃坂仁志、久保田健夫（24名）

欠席者：生田宏一、押村光雄、佐野浩、中尾光善、間野博行、向井常博、塩見春彦、仲野徹、村上洋太、吉田稔（10名）

（以上、幹事会名簿順）

議事に先立ち、定足数に達していることを確認し了承された（欠席者の7名より委任状）。

報告事項

1. 平成25年度事業報告

- (1) 第7回年会在中島欽一年会長のもと5月30-31日に奈良にて開催されたことが中島幹事から報告された。
- (2) 幹事会（5月30日）、総会（5月31日）の開催が報告された。
- (3) 第9回（平成27年）は角谷徹仁氏（国立遺伝学研究所）が年会長となることが決定されている旨が報告された。

2. 庶務委員会報告（会員数他）

久保田庶務委員会委員長から、平成25年末現在の会員数と会費納入状況（一般会員353名（会費納入率79%）、学生会員97名（会費納入率52%）、賛助会員5社（会費納入率60%）、および平成26年5月9日現在の状況（一般会員380名、学生会員120名、賛助会員5社）についての報告がなされた。

3. 広報委員会報告

中島広報委員会委員長から平成25年度のニュースレターの発刊数等の報告がなされた。

4. 第8回（平成26年）年会について

塩田年会長より報告がなされた。会場が飲食禁止であるため、ランチョンセミナーの開催ができなかった旨等が説明された。

5. 第9回（平成27年）年会について

角谷年会長（代理：樽谷氏）から第9回年会は2015年5月25-26日に一橋学術総合センター（東



京)で開催する準備をしていることについて説明があった。

協議事項

1. 平成 25 年度決算について、資料に基づいて、会計監査(担当: 中尾幹事、村上幹事)の監査結果とともに久保田庶務委員会委員長から報告され、了承された。

2. 第 10 回(平成 28 年)年会会長として仲野徹幹事が指名された。これを受けて、日程を平成 27 年 5 月の木曜日・金曜日(12-13, 19-20, 26-27 日のいずれか)とする予定であることが報告された。この間に予定がある幹事は、仲野幹事まで連絡することとなった。

3. 各種委員会委員について

会計監事の任期は、本会の会則で 3 年(再任はできない)と定められている(第 12 条)。これを受けて、今年度中に規定の任期(3 年)を超える(平成 23 年 10 月就任)会計監事については交代とし、新会計監事を選出する必要がある旨の指摘があった。

4. 幹事の任期更新について

本年の年会時に任期が満了となり、任期更新の希望の表明のあった 2 名の幹事に対し、参加幹事からの了承が得られ、任期更新が認められた。

合わせて牛島代表幹事から、幹事を増やす提案がなされ、これまで幹事から推薦のあった 5 名(木下哲氏、五十嵐和彦氏、浦聖恵氏、小布施力史氏、岩本和也氏)が提案された。会員歴を確認し、幹事として承認することとなった。

5. 平成 26 年度奨励賞の受賞者の選出について

田嶋賞等選考委員会委員長より「受賞者なし」となった経緯が報告された。

また奨励賞の応募数を増やすため、(1)副賞の金額を改定すること、(2)幹事の推薦(推薦書)を不要とすること、(3)広報を徹底すること、となった。年齢は検討の結果、据え置く(40 歳未満)こととした。また今年の年会では「受賞者なし」の連絡が遅く、プログラムに授賞式の部分が空白となったことより、(1)次回から、従来の選考時期より 2 ヶ月早めることとし、11 月に選考を開始し 1 月には決定する、(2)従来はメールでの審議のみであったが、より密接に意見を交換するため、委員長は必要に応じて委員会を開催できることとした。

6. 年会参加助成について

例年応募数が少ないこと(今年度は 10 件枠のところ 3 件)を受け、今後、申請数を増加させる方策に関して話し合われた。その結果、アワード的な助成(優秀発表に対する助成)ではなく、研究室等の経済状況で参加できない会員や子育てなどのライフイベントによる支援が必要な会員などに支給することが確認された。合わせて、これを研究会の HP で周知するとともに、年会の HP にも掲示(参加登録や演題募集のページから容易に参照いただける)することになった。なお募集文面は代表幹事を中心に、修正を検討することとなった。

7. 研究不正への取り組み



日本エピジェネティクス研究会ニュース **Japanese Society for Epigenetics (JSE) News**

5

STAP 細胞論文の調査に本研究会のメンバーが関与したこと等を受け、本研究会としての対応について議論した。会員が論文作成などの相談を気軽にできる体制の必要性が提議され、幹事は今後も必要に応じて協力していくことが確認された。さらに具体的な方策が取れないかに関して引き続き検討することになった。

文責：久保田健夫